

平安京左京四条二坊十五町跡・
本能寺城跡

2008 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京左京四条二坊十五町跡・

本能寺城跡

2008 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都には数多くの有形無形の文化財が今も生き続けています。それら各々の歴史は長く多岐にわたり、京都の文化の重厚さを物語っています。こうした中、地中に埋もれた文化財（遺跡）は今は失われた京都の姿を浮かび上がらせてくれます。それは、平安京建設以来 1200 年以上にわたる都市の営みやその周りに広がる姿をも再現してくれます。一つ一つの発掘調査からわかってくる事実もさることながら、その積み重ねによってより広範囲な地域の動向も理解できることにつながります。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした成果を現地説明会や写真展、考古資料館での展示、ホームページでの情報発信などを通じて広く公開することで市民の皆様へ京都の歴史像をより実態的に理解していただけるよう取り組んでいます。また、小学校などでの地域学習への成果の活用も、遺物の展示や体験授業を通じて実施しています。今後、さらに埋蔵文化財の発掘調査成果の活用をはかっていきたいと願っています。

研究所では、平成 13 年度より一つ一つの発掘調査について報告書を発刊し、その成果を公開しています。調査面積が十数平方メートルから、数千平方メートルにおよぶ大規模調査までありますが、こうした報告書の積み重ねによって各地域の歴史がより広く深く理解できることとなります。

このたび住宅建設に伴う平安京跡・本能寺城跡の発掘調査成果を報告いたします。本報告書の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

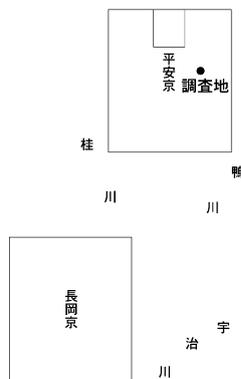
末尾ではありますが、当調査に際して御協力と御支援をたまわりました多くの関係者各位に厚くお礼と感謝を申し上げる次第です。

平成 20 年 1 月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 川 上 貢

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京左京四條二坊十五町跡・本能寺城跡
- 2 調査所在地 京都市中京区西洞院通六角下る池須町 423-7
- 3 委 託 者 株式会社 読売映像 代表取締役 菊池正人
- 4 調査期間 2007年12月3日～2007年12月17日
- 5 調査面積 約10㎡
- 6 調査担当者 平尾政幸
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「壬生」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系VI（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用基準点 京都市が設置した京都市遺跡発掘調査基準点（一級基準点）を使用した。
- 11 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 12 遺構番号 通し番号を付し、遺構種類を前に付けた。
- 13 遺物番号 遺物の種類別に通し番号を付した。
- 14 掲載写真 村井伸也・幸明綾子
- 15 基準点測量 宮原健吾
- 16 本書作成 平尾政幸
- 17 編集・調整 中村 敦・児玉光世・山口 眞



(調査地点図)

0 2 4km

目 次

1. 調査経過	1
2. 遺 構	2
3. 遺 物	5
4. ま と め	8

図 版 目 次

図版 1	遺構	1 調査区全景整地最上面 奥が SD04 (北から)
		2 調査区全景整地最下面 (北から)
図版 2	遺構	1 濠 SD04 (西から)
		2 小礎石 (南から)
		3 東壁断面 (西から)
図版 3	遺物	1 SD12 出土土器
		2 SD04 出土土器
		3 整地層出土土器
図版 4	遺物	1 SK03 出土土師器
		2 SK03 出土施釉陶器
		3 SK03 出土明染付・白磁
図版 5	遺物	SK03 出土土器
図版 6	遺物	1 SK03 出土焼締陶器
		2 SD04 出土花崗岩石材

挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：5,000）	1
図2	調査前全景	2
図3	作業風景	2
図4	調査区配置図（1：200）	2
図5	遺構実測図（1：50）	3
図6	SD12・整地層・SD04 出土土器実測図（1：4）	5
図7	SK03 出土土器実測図（1：4）	6
図8	その他の遺物拓影・実測図	7
図9	周辺の区画変遷模式図	8

表 目 次

表1	遺構概要表	2
表2	層名一覧表	4
表3	遺物概要表	5

平安京左京四条二坊十五町跡・本能寺城跡

1. 調査経過

調査地は京都市中京区池須町の南端部に所在する住宅建築予定地である。平安京の条坊では左京四条二坊十五町の東に接する西洞院大路の路面に該当する。西側の四条二坊十五町には平安時代後期に太政大臣藤原実季（さねすえ）の邸宅が所在していたとされ、また本能寺文書などによれば、大宮・櫛笥間にあった本能寺が天文法華乱で焼亡した後、天文十四年（1545）に再興のため、この地を当時の所有者であった土倉の沢村氏から買い入れた記録が残る。

今回の調査地の約 60 m 北方で平成 19 年 8 月に関西文化財調査会により実施された調査では、本能寺に関わる構・石垣や西洞院川を埋め立てた整地層が発見され、さらに同年 9 月にその西方で当研究所が行った調査でも本能寺に関わる遺構・遺物を検出している。今回の調査区は、その本能寺の南端付近に位置しており、関連遺構の検出が期待された。調査の結果、西洞院川（SD12）とその上部の整地層・東西方向の濠（SD04）などを検出した。出土遺物からみて、川の埋め立てから濠の廃絶までが 16 世紀中～末頃の本能寺が当地に所在した時期に限定でき、これらの遺構が本能寺にかかわるものであることが確認できた。特に調査区南部で検出した東西方向の濠 SD04 は本能寺の南限を示す遺構として重要である。

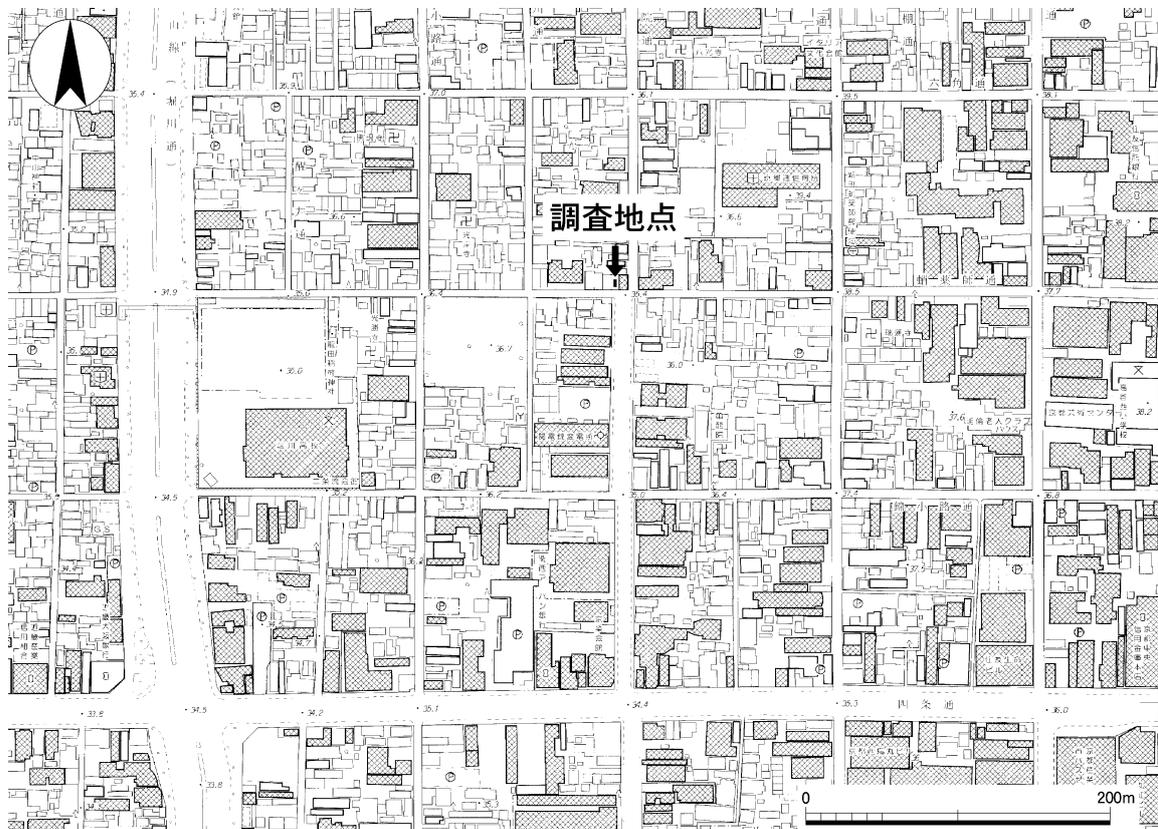


図1 調査位置図（1：5,000）

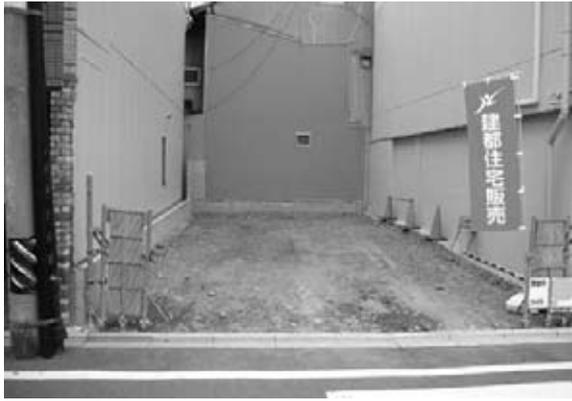


図2 調査前全景



図3 作業風景

2. 遺 構

今回の調査で検出した主な遺構は、表1のとおりである。調査地全体が旧西洞院川の流路上であったこともあり、室町時代前期以前の遺構は全く検出できなかった。

層序 厚さ0.25 mの現代層、0.1～0.3 mの江戸時代後期の土層を取り除いた表土下0.5 m前後で江戸時代前期の土坑SK03を検出し、この面から調査を行った。SK03の基盤をなす桃山時代の遺物包含層を約0.15 m掘り下げたところ、礫を含み固く締まった整地面（層21上面）が現れ、この面で東西方向の濠SD04、小礎石、土坑SK09・SK10などを検出した。以下約1.0 mにわたって整地層と思われる土層が重層し、その下部に流路堆積を検出した。この流路堆積は表土下約2 mまで確認している。今回検出した主要遺構の概略は以下のとおりである。

川跡（西洞院川）SD12 調査区全域の最下層で検出した。砂礫およびシルト質土層の堆積を確認したのみで川幅などは不明である。出土遺物は少ないが、16世紀中頃の土師器などがある。

整地層 SD12を埋め立てた整地層。全体の厚みは約1.0

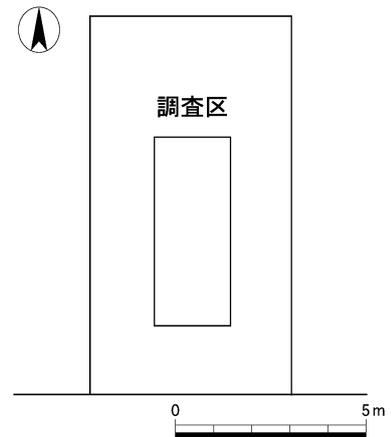
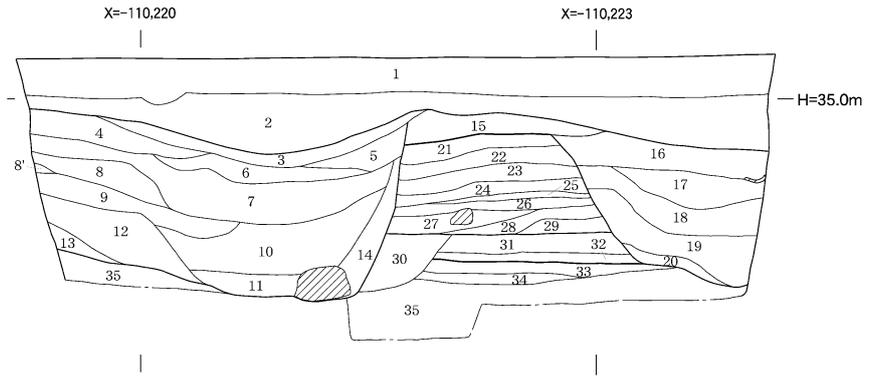


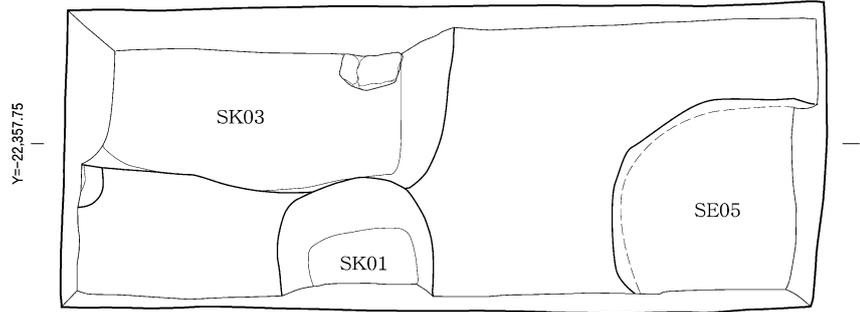
図4 調査区配置図（1：200）

表1 遺構概要表

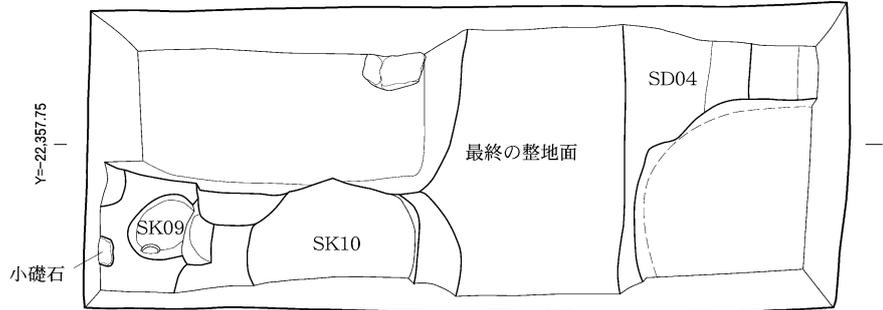
時 代	遺 構
室町時代後期	川跡SD12（西洞院川） 整地層 溝SD04（本能寺南濠）
桃山・江戸時代前期	土坑SK03（ゴミ廃棄土坑）
江戸時代後期	井戸SE05 土坑SK01



平面図-1 江戸時代の遺構



平面図-2 16世紀末頃の遺構



平面図-3 16世紀中頃の遺構

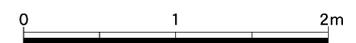
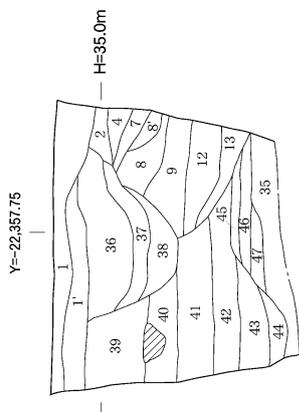


図5 遺構実測図 (1:50)

表2 層名一覧表

1	10YR 2/2 現代層 黒褐色砂泥 コンクリート・煉瓦混		24	2.5Y 4/2 暗灰黄色砂泥 炭混
1'	10YR 3/2 現代層 黒褐色砂泥		25	2.5Y 4/2 暗灰黄色砂礫
2	10YR 4/4 褐色砂泥粘質 灰黄褐色泥砂混		26	2.5Y 4/1 黄灰色砂泥
3	10YR 3/2 黒褐色砂礫 土師器小片含む	SK03	27	2.5Y 3/2 黒褐色砂礫
4	10YR 3/2 黒褐色砂泥		28	2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色砂泥
5	10YR 3/2 黒褐色砂泥 10YR 6/4 黄橙色粘質土ブロック混		29	2.5Y 4/2 暗灰黄色砂泥
6	10YR 2/2 黒褐色泥砂 炭混		30	2.5Y 3/2 黒褐色泥砂
7	10YR 3/1 黒褐色砂泥 灰・炭混 遺物多く含む		31	10YR 3/2 黒褐色砂泥
8	10YR 3/2 黒褐色砂泥		32	10YR 4/2 灰黄褐色粘質土と礫 固く締まる
8'	8に10YR 4/2 灰黄褐色砂泥ブロック状に混じる		33	10YR 3/3 暗褐色粘質土 上面固く締まる
9	10YR 4/1 褐灰色砂泥 炭・焼土混		34	2.5Y 4/2 暗灰黄色砂礫
10	10YR 4/2 灰黄褐色砂泥 炭・土師器小片混		35	10YR 3/3 暗褐色砂礫
11	2.5Y 3/2 黒褐色砂泥		36	10YR 4/2 灰黄褐色砂泥 褐色砂泥混
12	2.5Y 4/2 暗灰黄色砂礫	37	10YR 4/2 灰黄褐色砂泥	
13	2.5Y 3/2 黒褐色砂泥	38	10YR 4/2 灰黄褐色砂泥 黄橙色粘質土混	
14	10YR 4/2 灰黄褐色砂泥 炭・土師器小片混	39	2.5Y 3/2 黒褐色砂泥	
15	10YR 3/2 黒褐色砂泥 炭・土師器小片混	40	2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色砂泥	
16	10YR 4/2 灰黄褐色砂 炭・土師器小片混	41	2.5Y 3/2 黒褐色砂泥	
17	10YR 4/2 灰黄褐色砂泥	42	2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色砂泥	
18	2.5Y 3/2 黒褐色砂泥	43	2.5Y 4/1 黄褐色砂泥	
19	2.5Y 3/2 黒褐色砂礫	44	2.5Y 3/1 黒褐色シルト 砂混	
20	2.5Y 3/2 黒褐色泥砂 シルト混	45	2.5Y 2/1 黒褐色砂泥 灰・炭混	
21	2.5Y 3/2 黒褐色砂泥	46	10YR 3/2 黒色砂泥 (東壁31に対応)	
22	2.5Y 4/2 暗灰黄色泥砂 固く締まる	47	2.5Y 3/2 黒褐色砂礫 泥混	
23	2.5Y 3/3 暗オリーブ褐色砂泥			
		SD04		

mであったが、5～15 cm程度の厚さの層が十数層以上重なっていた。下層には数面の礫を含み固く締まった面（層33・層31上面など）が認められ、数度の整地が繰り返されたようである。各層からは16世紀代に属する土器類がわずかずつではあるが出土しているほか鎌倉時代の遺物もわずかに含まれている。

濠SD04 調査区南端部で検出した東西方向の濠。整地層の最上面で成立しており、16世紀末頃には廃絶している。北肩から底部付近までを検出したのみで、南肩部は不明である。深さは約1.05 m。最下層に水がたまっていた形跡を確認できたが、上部は埋め戻されたようである。出土遺物の時期や検出位置からみて本能寺南限の濠の一部と思われる。

小礎石 SD04と同様に整地層の最上面、調査区北端部で小礎石を1基検出した。上面の径が約20 cmの花崗岩で、検出面および断面の観察でも明確な堀形を確認できなかった。最上部の整地とともに設置された可能性がある。

土坑SK03 調査区北東部で検出した土坑。南北約2 m、東西1.1 mを検出したが、北および東にさらに延びている。ゴミ廃棄土坑と思われ、土器類のほか魚骨・貝殻などが出土した。

井戸SE05 調査区南西部で検出した江戸時代後期の井戸。完掘していないため深さや構造などは不明である。掘形は円形で、検出部分から推定して径約2 m前後と思われる。

3. 遺 物

遺物は主に西洞院川SD 12の流路堆積・その上部の整地層・濠SD04から出土した16世紀代のもものと、土坑SK03から出土した17世紀初頭のものがある。他に瓦・石製品・銅銭などがあるが、総量は少ない。主要なものを土器類を中心に記述する。

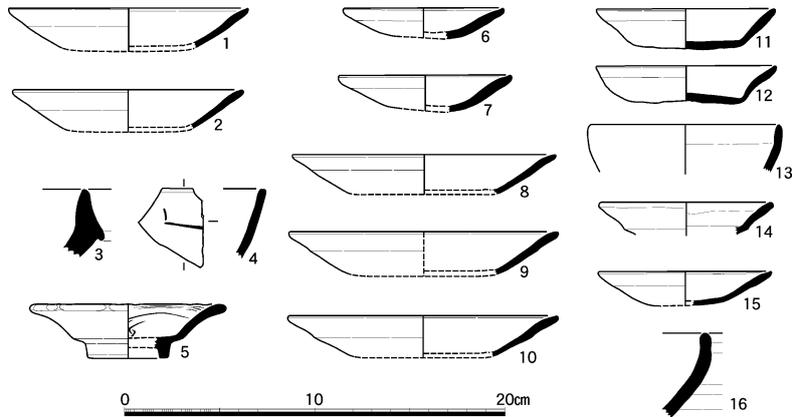


図6 SD12・整地層・SD04出土土器実測図(1:4)

SD12出土土器(図6、図版3-1)土師器皿S(1・2)、備前播鉢(3)、青磁碗(4)、青磁皿(5)や瓦

器羽釜などがある。いずれも小片であるが、土師器皿は16世紀中頃に位置づけられ、川の埋め立てがこの時期に行われたことを示している。

整地層出土土器(図6、図版3-3)土師器皿Sb(6・7)・皿S(8~10)・皿N(11・12)、古瀬戸灰釉鉢(13)、古瀬戸灰釉皿(14)のほか古瀬戸平碗などがあるが、小片で図示できなかった。これら整地層の土器類には16世紀中~末頃のものが含まれている。

SD04出土土器(図6、図版3-2)出土量は非常に少なく小片が多いが、図示した土師器皿Sb(15)、古瀬戸灰釉鉢(16)のほか16世紀末頃に位置づけられる土師器などが数点出土した。

SK03出土土器(図7、図版4~6)土師器、瓦器、美濃・唐津の施釉陶器、焼締陶器、輸入磁器がある。土師器には皿Sb(17・18)・皿S(19~23)・塩壺蓋(24)・小壺(25)・焙烙鍋(26)・羽釜(27)がある。瓦器には鉢(28)がある。施釉陶器には美濃灰釉碗(29)、天目碗(30)、黄瀬戸小杯(31)、志野碗(32)、美濃長石釉小鉢(33)・皿(34)、織部水注(35)・向付(36)・

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
鎌倉時代	軒丸瓦		軒丸瓦1点		
室町時代後期	土師器、瓦器、青磁、国産施釉陶器、焼締陶器、石製品、瓦	3箱	土師器10点、焼締陶器1点、青磁2点、国産施釉陶器3点、石材1点	1箱	1箱
桃山・江戸時代初期	土師器・瓦器・白磁・染付磁器、国産施釉陶器、焼締陶器	3箱	土師器11点、瓦器1点、国産施釉陶器14点、明染付2点、白磁2点、焼締陶器4点、銭貨1点	1箱	1箱
江戸時代後期	平瓦・丸瓦 土師器 国産陶磁器	2箱		0箱	2箱
合計		8箱	53点(2箱)	2箱	4箱

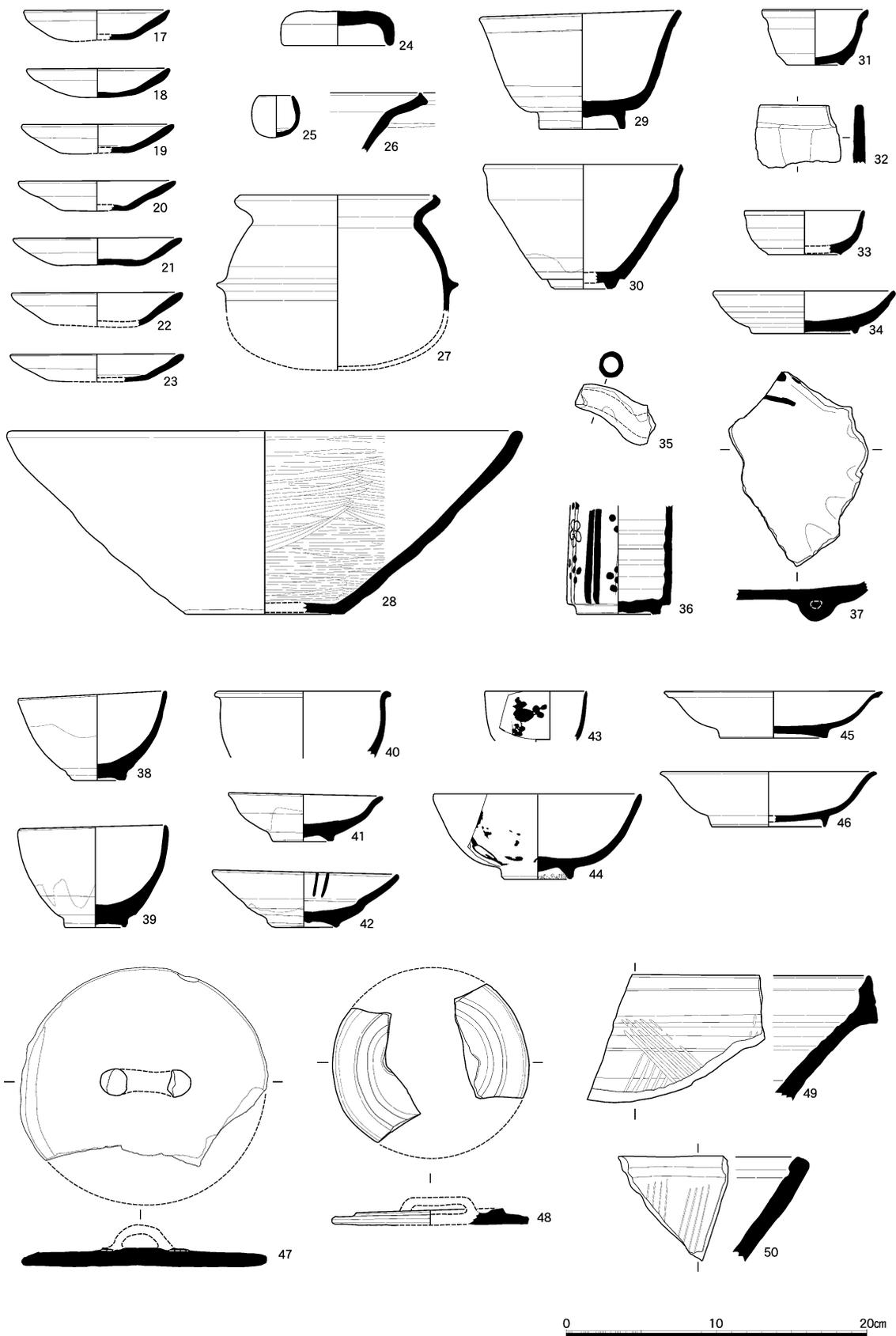


图7 SK03 出土土器实测图 (1 : 4)

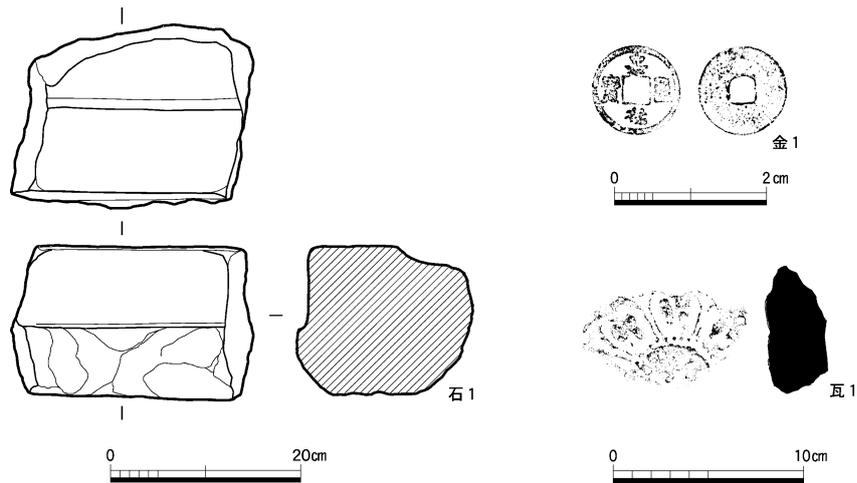


図8 その他の遺物拓影・実測図

鉢 (37)、唐津椀 (38・39)・鉢 (40)・皿 (41・42)、明染付小杯 (43)・椀 (44)、白磁皿 (45・46) がある。焼締陶器には信楽水指蓋 (47)、伊賀水指蓋 (48)、備前播鉢 (49)、丹波播鉢 (50) がある。このほか図示していないが、唐津水指や灰器と思われるタタキ目のある土師質の平鉢形の土器などの茶陶類が出土した。

その他の遺物 (図8、図版6-2) SD04 から花崗岩の石材 (石1) が出土している。破損しているが3面の加工面が残る。形状からみて他の部材と組み合わせ、建物の一部として使用されていたものと考えられる。濠底部から約15 cm上部の埋土中から出土しており、付近で使用されていたものが濠を埋め戻す際に投げ込まれたものであろう。SK03 からは嘉祐通寶 (金1) が1枚出土した。このほか整地層からの出土ではあるが鎌倉時代の軒丸瓦 (瓦1) が1点出土している。

江戸時代後期以降の遺物としては、SE05 やSK01 から出土した瓦・土師器・陶器・磁器などがあるが、総量はわずかである。

4. まとめ

調査の結果、室町時代後期の西洞院川流路およびその上部の整地層や本能寺の濠、江戸時代の土坑や井戸などを検出した。室町時代前期以前の遺構は川によって削平されており全く存在していなかった。

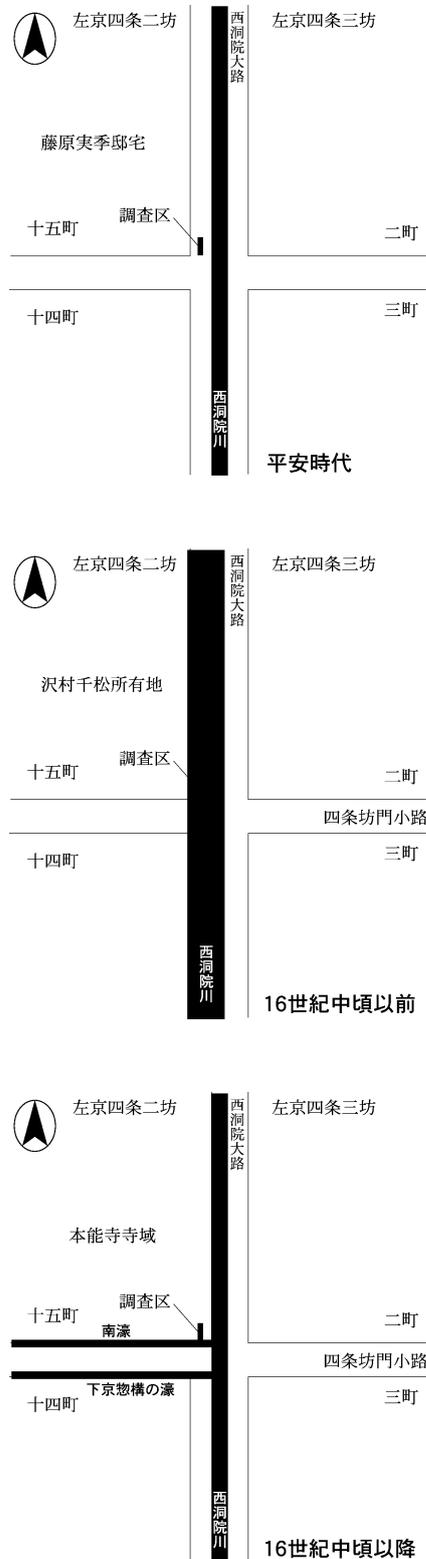


図9 周辺の区画変遷模式図

今回の調査で南濠を検出した本能寺は、天正十年(1582)に明智光秀による本能寺の変によって焼失したものである。その後、同寺は当地に再建が試みられたが、豊臣秀吉の命により現在の位置に移転している。当地に所在したこの本能寺の位置に関しては、江戸時代中期に森幸安が作成した『中京師絵図』では南側の十四町を含めた南北2町を旧本能寺寺域として復元しているが、2002年に当研究所が実施した旧本能小学校跡地の発掘調査によって下京惣構の濠を検出した結果、寺域は四条坊門小路(現蛸薬師通)より北に位置することを確認している。

今回検出した南限の濠の検出は、その調査成果とあわせ、本能寺文書にみられる「下京六角与四条坊門 油小路西洞院中間 方四丁町」という記載を裏付ける重要な成果といえよう。

整地層の下部に検出した西洞院川は、出土遺物からみて16世紀中頃に埋められており、その後何度かの整地が繰り返されている。この埋め立てや整地の時期に関しては、関西文化財調査会により実施された約60m北方の調査でも同様の成果が得られており、この周辺での西洞院川の改修がほぼ同時期に行われたことが推定できる。いずれの調査でも川跡が検出された位置は、平安京の条坊復元に照らすと西洞院大路路面の西半部にあたる。この西洞院大路を流下する川がいつ頃から存在していたのかは明らかではないが、室町時代中頃には川が存在し、大路の路面西側に広がっていたことが確認できた。ところで『寛永十四年洛中絵図』などに描かれた江戸時代初期の西洞院通は、四条坊門以北では通り西側の敷地が東に張り出している。すなわち西洞院川に接しており西洞院の路面は東側にしかない。しか

し、四条坊門以南では十四町側の敷地に変化はなく川は道路中央に位置している。このような地形の変化は今回検出した川の改修・整地に起因するものと思われ、この埋め立てと敷地の東側への拡幅が、この地における本能寺の造営と関連する可能性は高いが、先述の本能寺文書には「彼四町々同巷所等」の記載もあり、本能寺が十五町を買得した時点で、すでに川の西半が埋められ巷所として利用されており、本能寺が造営に際して方四町の土地と併せて、その巷所部分も寺域とした可能性も考慮しておく必要がある。

しかし、今回の調査によって寺域の南限を示す濠をこの位置で検出したことにより、埋め立ての契機はともかくとして本能寺の寺域が西洞院川に接していたことはほぼ間違いなく、寺域の南限と東限が明らかになったといえよう。おそらく、この濠 SD04 は西洞院川に取り付いており、寺域に接した西洞院川が東の濠として利用されていたものであろう。

また、今回の調査では南限の濠の幅を確認することはできなかったが、これを 2002 年に検出した下京惣構の濠と同規模の幅 4 m 程度と仮定すれば、洛中洛外図にも描かれている四条坊門小路（蛸薬師通）の幅員は 6 m 前後と想定できる。

版 图

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょうさきょうしじょうにぼうじゅうごちょうあと・ほんのうじじょうあと							
書名	平安京左京四条二坊十五町跡・本能寺城跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2007-11							
編著者名	平尾政幸							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2008年1月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうせき 平安京跡 ほんのうじじょうあと 本能寺城跡	きょうとしなかがきょうく 京都市中京区 にしのとういんどおりろっかく 西洞院通六角 さがるいけすちよう 下る池須町 423-7	26100	468	35度 00分 22秒	135度 45分 18秒	2007年12月 3日～2007 年12月17日	10m ²	住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京跡 本能寺城跡	都城跡 平城跡	平安時代・ 鎌倉時代 室町時代後期 桃山時代・ 江戸時代前期 江戸時代後期	 川跡、濠、整地層 土坑 井戸・土坑	軒丸瓦 土師器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、青磁、石製品 土師器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器 土師器、磁器、瓦		本能寺南限の濠を検出。		

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-11
平安京左京四条二坊十五町跡・
本能寺城跡

発行日 2008年1月31日

編集 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
発行

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の 1

〒 602-8435 TEL 075-415-0521

<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町 298 番地

〒 604-0093 TEL 075-256-0961